

本のまち
の巨大な
製紙工場

三菱製紙八戸工場

八戸ブックセンター
一周年記念



美沙亜藤佐 × 祐友村木

八戸出身
作家

ブック
デザイナー

巨大な
紙のロール
が出現!?

紙から本

展
で
ま
る
き
で
が

本文にも
設計書が
あるのか!

巨大
製本!?

言葉を
身体で
感じる

紙には、
こんなに
たくさん
種類が!?

本が解体
されると、
こんな
ことに!

いろんな
紙が宙を
舞う!?

ぜんぶ、
見せちゃ
います!

2017年12月13日(水)～2018年3月11日(日)

八戸ブックセンター ギャラリー / 11:00～20:00 (火曜休館)

主催: 八戸ブックセンター / 協力: 三菱製紙八戸工場 (1月2日より10:00開館)



本のまち

八戸ブックセンターは、平成29年12月で開設1周年を迎えることから、これを記念したギャラリー企画「紙から本ができるまで展」を開催致します。私たちが普段当たり前に読んでいる本は、原稿を書いている著者の方がいて、表紙や本文組みなど本全体をデザインする方がいて、紙をつくる方がいて、印刷・製本・出版する方がいて、そんないろいろな人たちの想いがつまって私たちの手元に届きます。今回の展示は、八戸出身作家・木村友祐さんの最新刊『幸福な水夫』ができあがるまでの過程を体感できる内容となっています。装丁はデザイナーの佐藤亜沙美さん、用紙は三菱製紙八戸工場で作られた紙を使用していますので、八戸でつくられた「紙」が、どのような道を辿って私たちの手元に「本」として届いているのかにも着目してお楽しみください。



Photo:尾島敦

木村友祐

(きむら・ゆうすけ)

1970年生まれ、青森県八戸市出身。八戸を舞台にした『海猫ツリーハウス』(集英社、2010年)でデビュー。ほかの著書に『聖地Cs』(新潮社、2014年)、『イサの氾濫』(未來社、2016年)、『野良ビトたちの燃え上がる肖像』(新潮社、2016年)がある。2013年、フェスティバル/トーキョー13で初演された演劇プロジェクト「東京ヘテロトピア」(Port Bの高山明氏構成・演出)に参加、東京のアジア系住民の物語を執筆(現在もアプリアになって継続中)。詩人・比較文学者の菅啓次郎氏の呼びかけで2014年よりはじまった「鉄犬ヘテロトピア文学賞」の選考委員もつとめる。



三菱製紙八戸工場

三菱製紙は1898年の創業以来、技術の力で社会に貢献することをおかけ、次代のニーズを的確にとらえた付加価値の高い商品を開発提供し、出版・印刷・写真などによる情報文化の発展に寄与しています。八戸工場は、1967年の操業開始から今年で50周年を迎え、この間いくたびかの震災や経済変動の荒波を乗り越え、国内有数の製紙工場として半世紀にわたり地元産産をリードしてきました。現在も、企業間連携によるバイオマス発電事業の着手や、家庭紙工場の新設などによる基盤強化を進め、更なる飛躍を目指しています。



Photo:小澤明子

佐藤亜沙美

(さとう・あさみ)

1982年生まれ。グラフィックデザイナー。2006年～2014年コズフィッシュ在籍。2014年サトウサンカイ設立。2016年から「Quick Japan」アートディレクターをつとめる。これまでの主な装丁に『ぼおるべん古事記(一)～(三)』(この年代)、『園外編集者』(都築響一)、『親愛なる』(いとうせいこう)、『ギャートルズ(肉の巻)(恋の巻)(無常の巻)』(園山俊二)など。

トークイベント

『幸福な水夫』出版記念

木村友祐×佐藤亜沙美×内沼晋太郎

12/17(日)
14時～

『幸福な水夫』著者の木村友祐さんと、本のデザインをした佐藤亜沙美さん、そして、八戸ブックセンターのディレクター内沼晋太郎さんによる、トークイベントです。

「紙から本ができるまで展」展示記念

佐藤亜沙美×三菱製紙(聞き手・内沼晋太郎)

1/20(土)
15時～

展示の監修をした佐藤亜沙美さん、三菱製紙八戸工場での紙の開発をしている信田博司さん(技術・環境管理担当部長)をお招きします。参加者の皆さまにも、実際に紙にふれていただきながら、展示のみどころや、紙を作る側のこだわり、紙を使う側のこだわりをお話しいたします。

要予約・定員各20名・参加無料

お申込みは、八戸ブックセンターカウンター、電話、ウェブサイト



B6判上製・190p(予定)
予価(本体1800円+税)
ISBN978-4-624-60121-8

『幸福な水夫』

木村友祐・著 未來社・刊

「それにしても、震災前と震災後では、ぼくの書き方はガラリと変わってしまった。『幸福な水夫』(2010年発表)、『突風』(2015年発表)の小説2篇と書き下ろしエッセイ「黒丸の眠り、祖父の手紙」を収録。書き方は変わっても、郷里の家族とちいさな命を見つめるまなざしは変わらない。温かな、ときに激しい南部弁の響きに満ちた作品集。



八戸ブックセンター

HACHINOHE BOOK CENTER

〒031-0033 青森県八戸市六日町16番地2

Garden Terrace1階 TEL:0178-20-8368

開館時間:11:00～20:00(1/2以降10:00～20:00)

休館日:毎週火曜日、12/29～1/1

WEB <https://8book.jp/>

